

# 14. 岡田国神社大般若経調査

正瑞 千幸

## 1. はじめに

岡田国神社は現在の京都府木津川市（旧相楽郡木津町）に所在する神社である。元は菅原道真を祭神として天神社と称する中近世木津郷の産土神であった。同社は大般若経を所蔵しており、それらは京都府暫定登録文化財の登録候補になっている。今年度実施した調査では、京都府教育庁文化財保護課の吉野健一氏と共に登録に向けた所在調査及び調査書作成を行った。

## 2. 調査概要

調査日 2022年7月27日、8月3日、9月16日、11月2日、12月4日

調査場所 京都府立山城郷土資料館

調査員 吉野健一（京都府教育庁文化財保護課美術工芸・民俗・無形文化財係）、稲穂将士（京都府立丹後郷土資料館学芸員、7月27日のみ）、横内裕人（教員）、正瑞千幸、長谷川巴南、濱野覚生（以上、博士前期課程）、上田菜々穂（研究生）

調査内容 計測、記録、奥書・紙背押印・紙背花押・箱墨書の撮影

## 3. 成果

調査の結果、大般若経600巻の内、514点が現存していることを確認した。筆遣いの特徴から、これらは主に平安時代末から鎌倉時代初期にかけて書写された経典で構成されているが、遺失を補うために南北朝期や室町時代、江戸時代に入って書写・印刷されたものも含まれている。また、奥書や紙背の花押・印判を整理することによって、同社の大般若経が本来一律で制作されたものではなく、様々な場所から取り集められて現在の姿になったことが判明した。

奥書によると筆写時期が建久6年（1195）や建暦元年（1211）まで遡るものもあり、鎌倉時代初期に作成されたものが多数含まれている。これに加えて、嘉禄元年（1255）に東明寺源長が願主となって僧侶聖縁が校正した巻や正平8年（1355）の読誦を記録した巻もあり、中世を通じて点検・利用が繰り返されたことが分かる。

修理の履歴を示す最初の例としては、弘治3年（1557）の破損修補を記す奥書が挙げられる。また、正徳2年（1712）8月29日に発生した木津川の氾濫によって、木津御霊宮経蔵にあった「此経」が全て浸水・汚損の被害を蒙ったが、約30年後の延享3年（1746）頃に汚れ除去、損字補完、裏打、表紙改装を行い、天神安楽寺へ納めて神宝としたとの奥書もある。現存する大般若経の表装が全て同一である点から、延享3年頃には現存する大般若経のほとんどが既に一括のものとして管理されており、同時期に装丁が改められたと推測できる。また、延享2、3年に木津天神別当安楽寺教慶が校正しているという奥書も、奥書に記された損字補完が実際に行なわれたことを示すものだろう。加えて延享2年に万福寺意仙法師の筆によって

紛失していた361巻が補足されており、延享2、3年が岡田国神社大般若経にとって大きな画期だったことが明らかとなった。この他にも、天明3年（1783）には伝福寺住租快禅師の本願によって檀越の助勢で大般若経の修復が行われており、近世中期を中心に保存修復が行われたことが分かる。

今年度の調査では、大般若経だけでなくそれらを収納する箱の調査も行った。箱は合計6箱あり、それらの身部分に記された墨書によると、大般若経は御霊天神社（岡田国神社）の什物であり、山城木津郷の小寺村・大路村・千童子村・枝村・上津村の名が書かれている。また、その内3箱の蓋裏には元文4年（1739）の墨書があり、別の1箱には天明3年の墨書もある。箱の身部分の筆跡と元文2年の蓋裏墨書の筆跡が類似している点から、元文2年に作成された後に天明3年に補修が加えられたのではないかと推測した。なお、第4箱は他の箱と比較して身部分の高さが半分程度しかない点が特徴的だが、これは身の下半分が何らかの原因で破損したために切り詰められたと考えられる。

#### 4. 小括

以上の調査成果から、岡田国神社大般若経の大部分が中世初期に作成され、その後産土神として信仰する木津郷住民の手によって近世中期の修理を中心とした長年に亘る保存管理の結果現在まで伝来したことが判明した。今年度の調査では、紙背に据えられた花押や印判については各種分類を行うところまで進んだ。これらの調査を本格的に行うことで岡田国神社に納められる以前の来歴を明らかにしようと推測されるが、これについては次年度以降の課題としたい。



写真1 調査風景（撮影者：横内裕人）

#### 編集後記

フィールド集報は、刊行当初より Adobe 社の InDesign を利用して組版作業を手作りでおこなっている。InDesign の取り扱いは、歴史学科文化遺産学コースのうち、考古・建築・地理の実習メニューに含まれ、本書の一部については、そうした実習のなかで学生が組んだものとなっている。

今年度のフィールド調査においても、各地で多くの方からのご理解とご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。歴史や文化遺産にかかる調査は一人では決して成しえないということを、今後も常に意識するように努めたい。(う)

---

京都府立大学文学部歴史学科

## フィールド調査集報 第9号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2023年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2

---